ダンス学習とジェンダー　報告2
――ダンス学習による学習者と指導者の意識の変容――

保健体育科　宮　本　乙　女

目　　次

Ⅰ　はじめに…… 104
Ⅱ　目的・方法…… 104
1．研究目的…… 104
2．研究方法・計画…… 104
3．質問項目…… 105
4．実践カリキュラム…… 105
Ⅲ　結果…… 106
1．学習者の意識…… 106
2．指導者の意識…… 111
Ⅳ　考察…… 117
1．学習者の意識の変容…… 117
2．指導者の意識の変容…… 117
Ⅴ　成果と課題…… 118

要　　旨

本研究は，特にダンス学習に於ける，学習者と指導者のジェンダー格差意識が，学習や学習指導を重ねることによってどのように変容していくか，について明らかにしようとしたものである。

ダンスを学習することによって「ダンスがどちらに向いているか」という点についてのジェンダー格差意識が減少するという，昨年度の調査結果を追証することができた。また，本校に限らず，他校の中学生，高校生，大学生についても調査を行い，同様の傾向があることがわかった。

指導者について，質問紙調査をし，男女共習の学習に取り組む経験を継続することによって，男女の特性の差だと意識していたことが，個性の差であると認識するようになったり，女子よりも男子に声をかける傾向が解消されるなど，指導者自身のジェンダー格差意識も解消していく傾向を読み取ることができた。

I　はじめに

中学，高等学校の学習指導要領体育編においては，戦後，長きに渡って各種目の「男子向き」「女子向き」という取り扱いが続いてきた（前田，1997)[1]。平成元年の学習指導要領改訂により，男女それぞれが武道やダンスを学習することができるようになり，平成14年度より施行された新学習指導要領では，子どもたちにとってさらに選択の幅が広がった。男女の区別なく個性に応じて多様な種目を学習できる体制が整いつつあると考えられる。しかし，制度の面で性差別がなくなってきたとしても，生徒や教師自身がスポーツ活動においてジェンダーから解放されていくとは限らないと言う指摘もある（松田，1997)[2]。また，ジェンダーの観点からは，小学校から中学校の学校制度や文化のさまざまな面でジェンダー・バイアスが強まるという報告がある（木村，1996，1999)[3]。筆者自身「男女共習のダンス学習」について，行い始めた18年前は，強く男女の違いを意識して継続してきた。中学における体育学習場面における男女のジェンダーについて，学習者の意識と，指導者の意識の両面から検討することは，この学習指導要領改訂の趣旨を活かす教育にとって大変重要であると考えられる。

筆者は，平成8年[4]と，13年[5]に，男女共習のダンス学習を実施した本校の中学1年生について，学習前と数時間の学習後にダンスが「男女どちらに向いていると思うか」についての意識調査を行った。多くのものは，「ダンスは女子に向いている」と考えていたが，学習後には「特に男女に差はない」というように意識が変容することがわかった。また，男子の「ダンスは女子のもの」というジェンダー意識がこの5年間で少なくなっていることも認められた。今年度はこの結果をふまえて，さらに，検討を進めたい。

II　目的・方法

1．研究目的

本研究は，特に，ダンス学習の分野において，学習者と指導者のジェンダーに関する意識の変容を明らかにし，今後の男女に対するダンス教育に資する資料を得ることを目的とする。具体的な目的は以下の2点である。

1．ダンスを学習することによって，学習者のダンスに対するジェンダー意識が薄れるという，平成13年度の結果を今年の本校の学習者で検証する。他校の事例も合わせて検討する。
2．男女共習の授業を行っている教師の意識の変容について，検討する。

2．研究方法・計画

1．対象：学習者

本校生徒を詳細な調査対象とするが，比較のために，本校以外の数校にも，調査の一部を

行う。

① お茶の水女子大学附属中学校（男子53名，女子85名）

② 男女共習クラスの中学生　筑波大学附属中学校（男子102名，女子103名）

③ 男子のみのクラスの高校生　都立東大和南高等学校（男子115名）

④ 男女共習の大学生　国際武道大学（男子15名，女子15名）

対象：指導者

中学，高校，大学で，現在男女または，男子にダンスの授業を行っている指導者

大学‥熊本学園大学，国際武道大学，福岡第一保育短期大学，福島大学，宮崎大学，横浜国立大学，埼玉大学，群馬大学

高校‥都立桐ヶ丘高校，都立晴海総合高校，都立東大和南高校

中学‥筑波大学附属中学，学芸大学教育学部附属竹早中学，茨城大学附属中学，お茶の水女子大学附属中学

2．方法

学習者‥アンケート方式。ダンスと，その他のスポーツに対するジェンダー意識に関する調査（学習前・学習中・学習後）

指導者‥アンケート方式。指導中の男女に対する意識，男女の特性に対する考え，指導歴の中での意識の変化など

3．質問項目

学習者アンケート（学習前，学習中，学習後。他校の学習者を対象には①のみ）

① 「ダンス」は男女どちらに向いている運動だと思うか。どちらがうまいか，ということではなく「向いている」ということについて答えること。また，そう考える理由は何か。

② 「バスケットボール」「ハードル」「ペースランニング」についても同様の調査

③ ダンス学習の中で学習者に求めている内容「思いついたらすぐに動こう」「身体を思い切り使ってダイナミックに動こう」「恥ずかしがらずに堂々と動こう」「グループで協力して作品にまとめよう」について，男子と女子とどちらが優れていると思うか。

指導者アンケート（男子を教える前，教え始めた頃，教え始めて見通しが出た頃）

① 「ダンス」は男女どちらに向いている運動だと思うか。

② 男女の特性の違いについて感じたことはあるか。それはどんなことか。

③ 男子と女子と，どちらにより多く声をかけているか。その理由。

④ 男子に，または，男女共習でダンスを指導する先生へのアドバイス

4．実践カリキュラム

創作ダンスを中心としたダンス学習を行った。基本的に1時間完結で，課題を解決する学習である[6]。1時間の授業のスタイルは，表1に示すとおりである。本校は，1単位時間45分であ

るが，ダンスは，90分で行うコマを，ペースランニング40分と組み合わせて50分で行っている。

また，2002年度の学習計画は表2に示した。生徒に示した目標は次の3つである。

① 恥ずかしがらずに堂々と
② 思いきり体を動かそう
③ 仲間の表現や個性を認めて楽しもう

表1　1時間の流れ

ダンスウォームアップ	5分
心と身体をほぐす	
本日の課題提示	5分
課題を動く	15分
先生といっしょに一人一人の動きとイメージを広げる	
グループ創作	15分
見せ合いとまとめ	10分

表2　2002年度の学習計画　1～6は50分。7・8，9・10，11・12は連続授業で90分

時間	課　題	内　容
1	しんぶんし	新聞紙を使って2，3人組で遊びながらひとながれ
2	走る―止まる	走る止まるのメリハリを大事に3，4人で小作品づくり
3	固まる―とびちる	ぎゅっと集まって、ぱっと飛び散る群の課題。
4	スポーツいろいろ	スポーツのデッサンから6人で作品づくり
5	〃　ミニ発表	クラス内でミニ発表会。ひとグループずつ。
6	真冬の特別プログラム	ストレッチ，リズムを音楽に乗って。ウォームアップ作り
7	VTR鑑賞，調査	スポーツのミニ発表をVTR鑑賞。他のクラスの作品も。
8・9	見立ての世界	色々なものを使って「見立て」て遊ぶ。
10・11	〃　作品づくり	ものも，身体も場所も大きく使ってグループで小さな作品。
12・13	学年合同発表会	司会者も立てて、学年で合同発表会。

III　結　　果

1.　学習者の意識

(1)　学習前の意識

「ダンスは男女どちらに向いている運動だと思いますか‥‥どちらがうまいかと言うことではなく『向いている』ということについて答えてください」とたずねた。

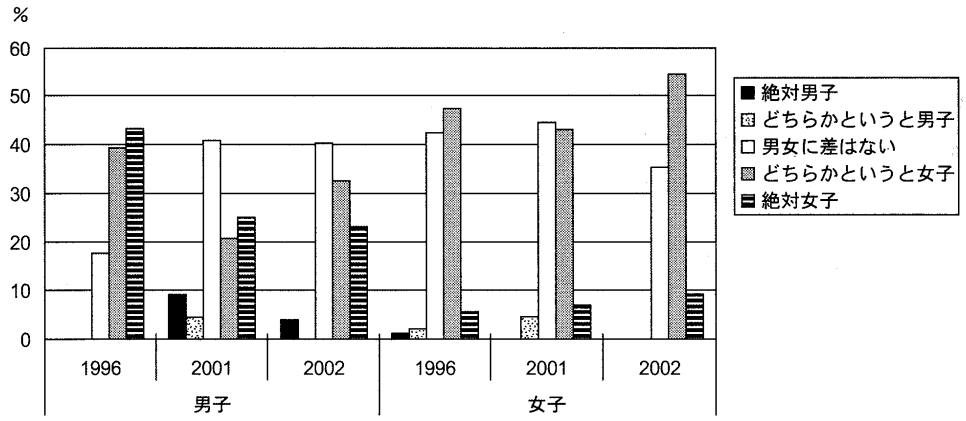
回答は，5段階で、「絶対女子」「どちらかというと女子」「どちらとも言えない」「どちらかというと男子」「絶対男子」から選択する。

学習前の意識調査では，今年度（2002年度）は，男女とも「ダンスは女子に向いている」と考えるものが6割あった。昨年とほぼ同様の傾向である。1996年，ちょうど6年前の同調査では，女子は同様の傾向を示したが，男子では「ダンスは女子に向いている」と考えていた生徒が8割を超え，高い割合を示していた。

表3　学習前の意識　「ダンスは男女どちらに向いた運動か」数字は%

	男子			女子		
年度	1996	2001	2002	1996	2001	2002
絶対男子	0.0	9.1	3.8	1.0	0.0	0.0
どちらかというと男子	0.0	4.5	0.0	2.0	4.7	0.0
男女に差はない	17.6	40.9	40.4	42.7	44.7	35.7
どちらかというと女子	39.2	20.5	32.7	47.6	43.5	54.8
絶対女子	43.1	25.0	23.1	6.1	7.1	9.5

図1　学習前の意識　1996，2001，2002

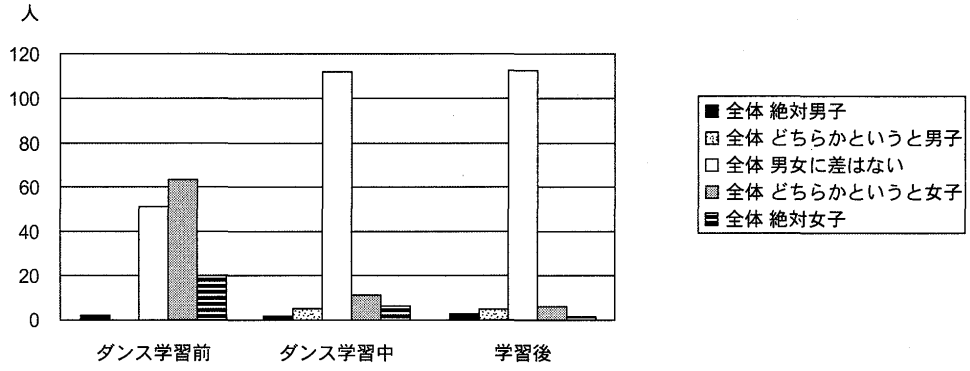


(2)　学習による意識の変化

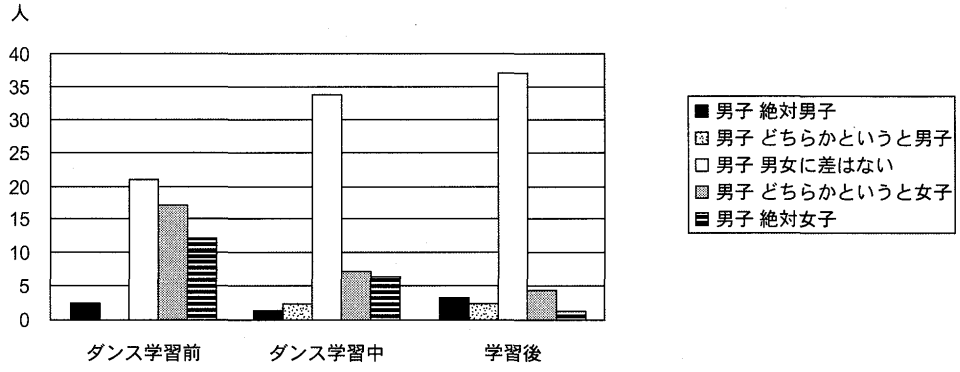
オリエンテーションの時に行った調査による授業前の予想（以後「学習前」），4つの課題を学んだあと（以後「学習中」），そして，最後の発表会を終えたあと（以後「学習後」）の調査結果は，図2の通りである。学習前は，全体として，6割以上が女子に向いていると答えたが，3つの課題を学んでミニ発表を終えた5時間目には，1割強に減少する。逆に「男女に差はない」と答えるものが，8割に増加する。男女ともに，学習を始めて数時間でこのように顕著に意識が変化する。

図2　学習による意識の変容

ダンスはどちらに向いているか　2002全体



ダンスはどちらに向いているか　2002男子



ダンスはどちらに向いているか　2002女子

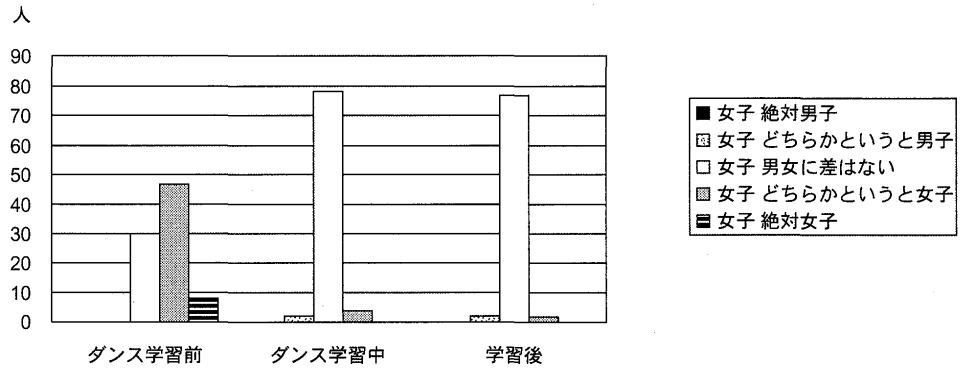


表4　学習による意識の変容　（数字は人数）

	ダンス学習前			ダンス学習中			ダンス学習後		
	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子
絶対男子	2	2	0	1	1	0	3	3	0
どちらかというと男子	0	0	0	4	2	2	4	2	2
男女に差はない	51	21	30	112	34	78	113	37	76
どちらかというと女子	63	17	46	11	7	4	5	4	1
絶対女子	20	12	8	6	6	0	1	1	0

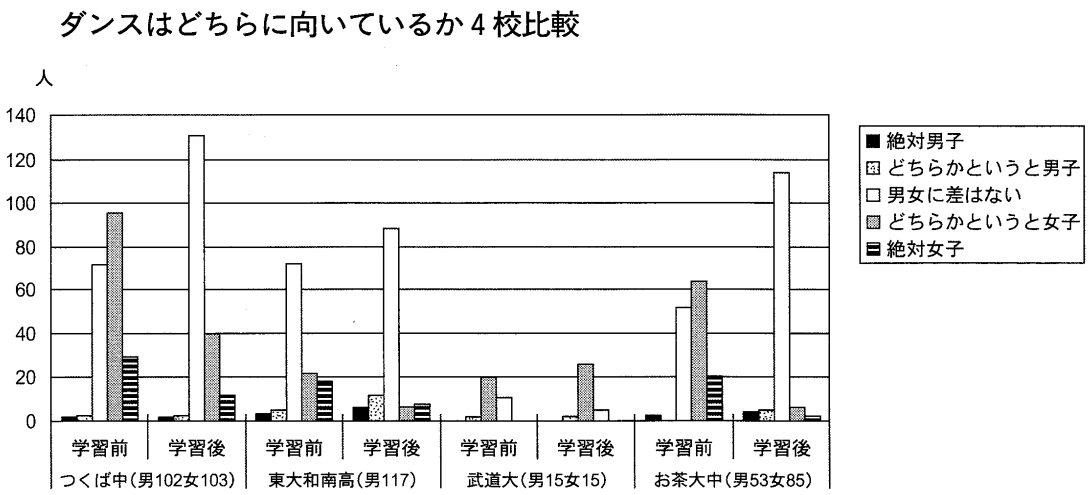
(3)　他校の場合

今年度は比較のために，本校と同様に，創作ダンスをその学習内容の中心としている中学校（男女共習）と，高等学校（男子のみ），大学（男女共習）の学習者について，同様のアンケート（学習前と学習後）を行った。結果は表5，図3に，示した。

表5　学習による意識の変容　他校の場合　　**（数字は人数）**

	つくば中（男102女103）		東大和南高（男117）		武道大（男15女15）		お茶大（男53女85）	
	学習前	学習後	学習前	学習後	学習前	学習後	学習前	学習後
絶対男子	1	1	3	5	0	0	2	3
どちらかというと男子	2	2	4	11	1	1	0	4
男女に差はない	72	131	72	88	19	25	51	113
どちらかというと女子	95	39	21	6	10	4	63	5
絶対女子	29	11	17	7	0	0	20	1

図3　他校との比較

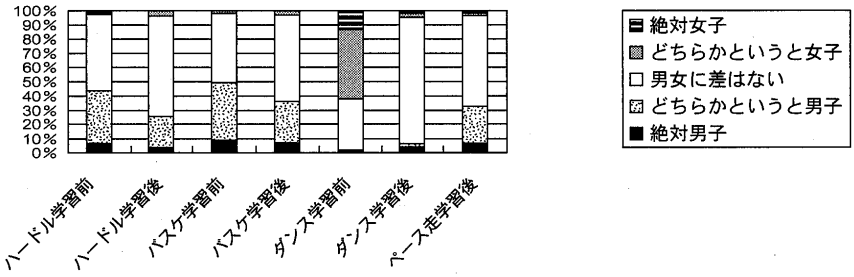


調査対象となった学校では，いずれも，学習前よりも学習後の方が，「男女に差はない」と答えるものの割合が高くなっている。特に，同じ中学である筑波大学付属中学校は，本校とよく似た結果になった。また，高校生，大学生では，中学生に比較して，ダンス学習前から「男女に差はない」と答えるものが多かった。

(4)　他の種目は男女どちらに向いていると考えられるか

これも比較のために，同時期に学んでいた，ハードル走，バスケットボール，ペースランニングの3種目を対象に調査をしてみた(ペースランニングは学習後の調査のみ)。どの種目についても，学習後には，「男子に向いている」と回答するものが減り，「男女に差はない」が増えている。学習前に，ダンスが女子にかたよっているのに対し，他の種目は男子の方にかたよっている。ダンスに対する意識の変化の現れ方が一番顕著である。

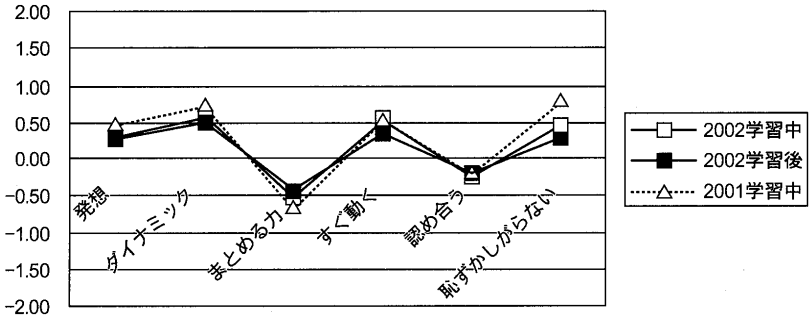
図4　次の種目は男女どちらに向いているか



(5)　男子の得意と女子の得意は意識されているのか

・・・2001年度（学習中），2002年度（学習中，学習後）

図5　男女どちらが優れていると思うか「学習中」と「学習後」



ダンスの授業の中で，学習者に求めている内容「たくさんイメージを見つけよう」「身体を思い切り使ってダイナミックに動こう」「グループで協力して作品にまとめよう」「思いついたらすぐに動こう」「仲間の個性や表現を認め合おう」「恥ずかしがらずに堂々と動こう」について，男子と女子とどちらが優れていると思うかをたずねた。これも「絶対女子」から「絶対男子」までの5段階でたずねた。図5は，絶対男子を2点，どちらかというと男子を1点，男女に差はないを0点，どちらかというと女子を－1点，絶対女子を－2点として，点数化したも

のの平均値をグラフ化したものである。「思いついたらすぐ動く」「動きがダイナミック」「恥ずかしがらない」の３つの項目は男子が，「作品としてまとめる」は女子が優れていると思っていることが読み取れる。それぞれの間に５％水準で優位な差が見られた。グラフに見られるプロフィールは，昨年の調査結果と同様である。また，今年度は，学習中と，発表会を終えた学習後と，２度にわたって調査をしたが，「すぐ動く」という項目について学習後の方が，男女に差はないと考えるものが増えた（５％水準)。他の項目では変化は見られなかった。

2.　指導者の意識

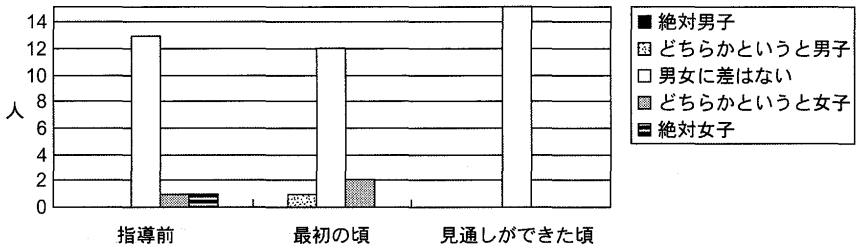
今回対象とした指導者は，日本女子体育連盟の授業研究グループでダンス学習についての実践研究をしているメンバーの中から男女共習あるいは，男子を指導している教員である。ダンス指導歴，男子への指導歴の長い指導者も多く，学習指導要領の改訂で男女ともにダンスを学べるようになってから，先駆けて指導に取り組んできたメンバーであると言える。

(1)　ダンスを学習することについて，男女どちらに向いているか，という，生徒に対する質問と同じ項目で調査した結果を表６，図６に示した。15人のうち，13人の指導者は男子への指導をする前に，「男女に差はない」と考えており，指導に見通しのできた頃には，全員が「男女に差はない」と考えている。

表６　ダンス指導者の意識「ダンスを学習することについて男女どちらに向いているか」

氏名	所属	ダンス指導年数		ダンスを学習することについて男女どちらに向いていると思うか		
		ダンス	男子指導	指導前	指導し始めた最初	見通しができた頃
O	大学	30	26	特に男女に差はない	特に男女に差はない	特に男女に差はない
A	大学	26	22	特に男女に差はない	どちらかというと女子	特に男女に差はない
B	大学	26	21	絶対女子	どちらかというと女子	特に男女に差はない
C	大学	22	15	特に男女に差はない	特に男女に差はない	特に男女に差はない
D	大学	38	13	特に男女に差はない	特に男女に差はない	特に男女に差はない
E	大学	13	13	特に男女に差はない	特に男女に差はない	特に男女に差はない
F	大学	13	13	特に男女に差はない	どちらかというと男子	特に男女に差はない
G	大学	16	8	特に男女に差はない	特に男女に差はない	特に男女に差はない
H	高校	22	6	どちらかというと女子	特に男女に差はない	特に男女に差はない
I	高校	13	6	特に男女に差はない	特に男女に差はない	特に男女に差はない
J	高校	42	2	特に男女に差はない	特に男女に差はない	特に男女に差はない
K	中学	20	18	特に男女に差はない	特に男女に差はない	特に男女に差はない
L	中学	18	18	特に男女に差はない	特に男女に差はない	特に男女に差はない
M	中学	6	6	特に男女に差はない	特に男女に差はない	特に男女に差はない
N	中学	9	4	特に男女に差はない	特に男女に差はない	特に男女に差はない

図6　指導者の意識　「ダンス学習は男女どちらに向いているか」2002年



(2)　男女どちらに，より多く声をかけているか

学習指導の中で，男女，どちらにより多く声をかけているか，指導し始めて最初の頃と，指導に見通しのできてきた頃について調査をした。最初の頃は，10人の指導者がどちらかというと男子に声をかけている(図7)。見通しが出た頃には，男女に差はなく声をかけるようになった指導者が多い。理由を表7に示した。

男子が遊びモードになったり，まじめにやらないのではないかという，学習の管理的な側面からの理由が一つと，特に大学生などはこれまでの学習経験の差を考慮して男子により多く関わっているという様子が読み取れる。また，男子にダンスを教えることに対する不安などから，男子の方をより多く気にかけているという記述もあった。

指導に見通しが出てきて，男女に差はなく声をかけるようになった理由は，男女差より個人差や必要の差によって声をかけるようになったという内容が多く，また，一部には，これまで男子に多く声をかけていた自分に気づいたり，そのために女子が伸びていないという危惧を感じた発言もあった。

図7　指導者の意識　「男女どちらにより多く声をかけているか」2002年

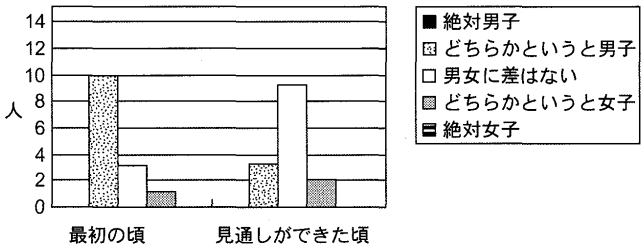


表7

男子に，より多く声をかける理由
【教え始めた頃】 ○初期はまじめに練習するよう男子に良く声をかけていた ○なかなか作品ができあがらなかったため ○まず男子を乗せて楽しい雰囲気を創ると，次第に女子もとけ込んでくる，男子はすぐにふざけるので遊びモードになる前に声かけ ○男子の関心を引かないといけないと感じていた ○指導者として男女差はないと思っているが男子学生のダンス経験が少ないため授業の初段階では積極的に

男子に声をかけていた。
○共習では(女子が他のダンスを経験している時期もあったので)，初心者の男子に関わることが多かったこともあった。男子学生を何とかしようと思っていたときや，女子は「わかってるから」などと思うときなど，女子よりも男子に関わっていた気がする。
○体育専門の男子学生をどう教えればいいのかどうすればダンスが楽しいと感じさせることができるか手探りで状態で，つい男子の方を気にかけていたため
○男子の存在が自分にとって新鮮で興味深かった。ついてきてくれるか不安だったので，常に気になってしまった。
【教え始めてある程度見通しが出た時期】
○飽きさせないため。男子はドンドンかわっていくのでおもしろい
○課題の練習時は即興的にためらいなく大胆に動くのは男子であることが多く結果として男子をほめることが多い。ダンス嫌いだったりやる気がなかったりすると動かないのも男子であるため
○保育養成校としてクラスの男女比が4：1で圧倒的に女子数が多く埋もれる傾向にある

女子に，より多く声をかける理由

【教え始めた頃】
○ダンスに限らず高校生，特にあまり授業に対して積極的でない学校では，一概に女子の方が動き出すまでに時間がかかる。システムを理解するまでなかなか動き出さず，動きも緩慢である。
【教え始めてある程度見通しが出た時期】
○作品創作時は男子は作品を見せたがらず「見てのお楽しみ」などといってアドバイスを聞こうとしない
○男子は始めると速いし，いったん乗ると勝手に進めてゆけるので
○これまでの思いこみを早く変えたいので

差はない理由

【教え始めた頃】
○男女ともに良いところがある
○性別よりも個人を対象とした
【教え始めてある程度見通しが出た時期】
○問題を持っている子に声をかける，頑張りに声を掛けるなど…学生の活動を見通し声を掛けるのは，男女関係ない。
○必要に応じてかける，個人差
○性差より題材の選び方
○これまでどちらかというと男子により多く声をかけていた自分に気づきできるだけ平等にと最近は心がけている
○ある段階からはじめの15分で生徒が見通しを持つようになったのか，ふり返ると勝手に練習していてビックリした。それからは「できない」「苦しんでいる」グループ中心に声をかけている
○男子ばかりに関心が行くと女子が生きにくいと思うようになった
○個人差や集団差はあるが男女差はあまり感じない

(3)　男女の特性の違いについて感じたことがあるか

次に，「男女の特性の違いについて感じたことがあるか」を，指導し始めた頃と見通しができた頃について，それぞれ調査をした。6人は「最初の頃に感じた特性は，実は経験の差や，個人差だと考えるようになった。2人は最初も現在も特に感じていない。また，4人は，最初の頃も，見通しが出た頃も特性を感じているが，そのうち3人は感じる内容が変わっている。1人はまだ2年目で記述無しであった。先の「男子により多くの声をかける」から「男女両方にかけるようになる」理由の傾向と共通するものがあるようだ。

表8

氏名	所属	指導年数(男)	指導して感じた特性の違い	
			最初の頃	見通しができた頃
O	大	30 (26)	取り組むイメージや題材の方向，練習をあまりしないで，パッと発表など，取り組み方，照れもあってか下ネタ系へいくこともあるなど	違いは個性
A	大	26 (22)	イメージや題材の選び方や動きに違いが見られた	20年前は男子がダンスをすることは普通に行われていたという感じは少なかった。現在は，性差でのイメージの選び方や動き方の違いはなくなっているように思える。男子でも柔らかい感じの物を選ぶし，女子もダイナミックな感じを選ぶように思える。性差よりも個人差に思える感じが強い。
B	大	26 (21)	かなり違う，経験の違いかなと思っていた	女子はこつこつと計画的にとり組むが，男子は真剣になれば，すごい集中力を発揮する。時に女子をリードすることもある。男子は体力に物を言わせて，奇想天外な動きを創る。男子は技術がない分ウケをねらおうとする。おたがいの良さを認め合い，取り入れようとする。
C	大	22 (15)	笑いをねらうからか男子は発想がおもしろい逆に女子は笑われたくないからか，無難にこぎれいにまとめようとする。男子はみんなの前でこうした方がいいとか自分の意見を好き勝手に言うが，女子はなかなか自分の意見は言わない	最初に感じた性差ではなく個人差だと思うようになりました。男子でもなかなか積極的に動こうとしない人もいれば，逆に女子でもさっさと，しかも一人でも思ったとおりに動き出す人もいます。
D	大	38 (13)	男子はダイナミックな動きができることとおもしろい発想をする。	はじめはやりにくいかなと思っていたがなれるとそんなことはなく，リーダーをするとグループが良くまとまる。男女差というよりひとりひとりの個性の問題だと思う。
E	大	13 (13)	男子は動きが大胆で独創的，群舞であっても個々が主張する。女子は動きが繊細で作品をきれいにまとめる力がある。	同様
F	大	13 (13)	筋力が女子より大きいため特に空中での表現（ジャンプ系統）のおもしろさが表出し彼らもその楽しさを感じると積極的に表現しようとする	物の発想，イメージの広がりが男子の方が自由である。
G	大	16 (8)	動きのダイナミックさ、発想の広がり，掌握の困難さ‥女子より騒がしい，落ち着きがないなど	男女差だと思っていたことが，実はこれまでの経験差なのではないかと考えるようになった。国内では大学生になるまでに女子は何らかの形でダンス授業を受けているが，男子は圧倒的に学校教育の中での経験が少ない。この差が現在の授業進行上のやりにくさに関係していると推察する。今後は，男女共習が浸透し，格差はなくなると思うが
H	高	22 (6)	男子は女子よりダイナミックな動き（ジャンプ・速く走る）が得意である。一度踊ること，創ることの楽しみがわかると，ドンドンその世界に入っていき，オリジナルな動きを創り発想を広げていける。	ダイナミックな表現とともにとてもデリケートな動き，心の中の動きもできること，女子よりもより内面をしっかり見つめて独創的な動きを創り出していることもわかりました。
I	高	13 (6)	男子は，具体的でわかりやすい説明があればさっさと動くが，女子は動き出しまでが長い。	男子は，自分たちの中で取り込んだ情報を，「自分たちなりに面白く」料理して，その結果が意外な形になったとしても，その過程が納得できれば満足しているように感じます。
J	高	42 (2)	男子はダイナミックな動きがすぐにできる，発想が女子よりも自由	（記述無し）

K	中	20 (18)	男子はふまじめ，女子はおとなしい，けんせいし合う，と思っていたかもしれません	女子の方がきれいにきちんとまとめたがる傾向はあるかもしれない。男子の発想面ではぬきんでた子が毎年いると思う。男子は，練習嫌いで発表したがるタイプ，動き続けるタイプ，体からわき出してしまうタイプと，明確に見えやすい。女子は偏差の開きが少ないとおもう。
L	中	18 (18)	男子は荒削りで単純，大きな動きが得意，女子はよく考えてから動く	女子もダイナミックなイメージで元気に動く，男子も細やかに作戦を練る子もいる。個人差の方が大きい。
M	中	6 (6)	年によって生徒の質によって違いがあるが，男子はダイナミックに，女子は細やかに自分の感情を表現しています。	同様
N	中	9 (4)	男女差はあまり感じない	同様

(4)　男女共習または男子にダンスを指導する先生にアドバイスするとしたらどんなことか。

いくつでも，と調査した結果，15人の指導者がのべ42件のアドバイスを回答した。大きく分類すると，「取り上げるダンスの課題，約束，進め方などに関すること」19件，「言葉かけやほめ方，雰囲気などに関すること」11件，「教師の意識変革に関する内容」8件，「学校内での『ダンス』の価値や，意識などに関すること」4件であった。

「取り上げるダンスの課題や約束，進め方」に関しては，ダイナミックな動きを引き出す課題からはいる，運動の課題からはいる，極限まで体を動かす，リズムに乗って心地よく，など，多くのアドバイスは，男子に限らず初心者の女子にも共通する内容が並んだ。また男子の生活体験や，男子のやりそうな内容についての予測を持って準備しておくことも書かれている。

「言葉かけやほめ方，雰囲気」に関する内容では，たくさんほめて，おたがいを認め合うような雰囲気作りや，極限の動きを引き出す言葉かけがあがっている。男女の違いとしては，ほめ方の違いについて，言及しているものも数件あった。

「教師の意識変革に関する内容」は，女性だから，男性だからという教師自身の固定観念から解放される必要があるというアドバイスが並んだ。

その他，学校内で，男女がダンスを学ぶことが当たり前であるという考え方を，他の教育課程との関連を計りながら定着させるように進めるアドバイスもあった。

取り上げるダンスの課題，約束，進め方などに関すること　19件
○単元の配列の工夫 ○動いてみたくなる導入や取り組む共通課題の提示の仕方を工夫する ○オリエンテーションで生徒の心をつかむ教材研究の工夫「ダンス」とはどう捉えるが変わってしまう ○初めは，極限まで身体を動かしたり，場所を広く使うように指導する。(上手にやるより，精一杯身体を動かすことから。その方が，早く上達する。) ○快くリズムに乗って踊ること，しんぶんしなどで心身を解放すること ○アイディアが浮かんだらすぐ動きにする。10分あれば作品はできる。打ち合わせは1分練習に9分。 ○ダイナミックな動きを単発ではなく複合して連続の動きにして体感させる

○最初は恥ずかしがるが，思い切り動く（ジャンプ，走るetc）表現を多く経験すると吹っ切れて，楽しく動くように思う。
○運動課題で十分表現したあと，イメージ課題がよいと思う
○自意識の強い中学生の場合ダイナミックな課題から入ってお互いに恥ずかしさを早く払拭すると良い
○デッサンやイメージを広げて動きにすることも早い時期から取り入れる
○身体表現の時間だと言うことを強調。
○男子女子を感じないくらいに思いっきり動かしてしまうと，いつの間にか空気がひとつになって笑顔で動いていることがあります。
○やはり「走―跳―転」のようなダイナミックな物は得意。「ここまで跳べる？」等チャレンジさせると意欲的になる。
○表現の対象（イメージの広がり）を男子の生活体験を理解しながら（例えばオートバイツーリング，スノボーetc）提供すると良いであろう。
○男子の持つ能力を引き出す，(女子と同じ動きをしなくても男子特有なダイナミックな動きや個性的動きを取り上げていく)
○女性感覚とおもわれるような動きやダンスの内容になりすぎない
○授業の初期段階で，約束事や受講姿勢などを，しっかりと押さえておく。飛び離れた発想や奇抜なアイデア，一発芸，下ネタ等，男子がやりそうなことを，教師はどこまで容認するのかを確認しておく。途中でウケに走って収集がつかなくなる場合も…。
○グルーピングの工夫。時には同性同士，時には異性同士のグルーピングを積極的にする必要性を感じる。但し，異性同士を組む場合，いろいろな課題で十分からだを動かす機会を踏んでからがよい。

言葉かけやほめ方，雰囲気などに関すること　11件

○よさを見つけてほめる。
○お互いを認め合える空間
○おたがいの良さを認め合い，おたがいの違いを生かせるような思いやりの心が授業や作品づくりを通して生まれて来たらすばらしいとおもいます
○教師がたくさんほめてお互いを認め合う雰囲気をつくる
○先生の笑顔
○ほめ方の違い‥女子にはどこが，どのようにと，懇切丁寧によいところを説明する。男子はとりあえず一発何でもいいからほめる。
○ちょっと難しいよ，できる？といって発奮するのは男子が多い。女子は（特に後込みしがちの）徐々に様子見しながら（時間のゆるすがぎり）丁寧に段階を踏んで入れてゆく女子でもダンスに対して前向きな集団の場合は，ほめるほめるどんどんほめて，最期に一言「こここうしたらもっといいかも。なぜならかくかくしかじかだから。」と，もう一歩すすめてアドバイスしてゆく
○ダイナミックな動きやユニークな発想など，男子の長所を褒める場面も多いが，女子の長所にも眼を向け，ほめるように心がける。女子の影が薄くならないような配慮が必要。
○せっかくダンスするのだからもっと格好よく動いて！
○男子に「ダンスを甘く見たらいけない」「全然跳べてない」「その程度しか跳べないの」「信じられない，君ならもっと跳べると思ってた」
○男子に「決まった動きなら誰でもできる，俺しかできない動きにして」「それ，前に見たことがある，せっかく創作ダンスなんだから，今まで見たこともないような動きをしようよ」
○何でもOKの中で体の隅々までうごかすためのことば
○生徒とのコミュニケーションは間接的にではなく直接的に，をより多く。

教師の意識変革に関する内容　8件

○女性だから男性だからと言う，指導者側の固定観念があるとしたら，それからも指導者が解き放たれる必要性がある。
○「男子にはこんな風に‥」とか「男子だからこの課題は向いているか‥」等，教師が意識しすぎたり構えてしまうとよくない。「ダンスの特性をしっかり押さえて教えよう！」と考えるだけで充分
○まず教師が，ダンスは女子とか創作はつまらないなどの固定観念を捨てる。生徒の方が心も体も柔軟
○男子女子という意識を特に持たずに一緒に仲良くなれるよう指導者が指導助言していくことが大切

○先生が恐れないこと―慣れるためどんどんやること、中学1年（小学校の延長）からやること ○教師が「心も体もはじける」事が大切で生徒と一緒に楽しむことが一番 ○大学生にはあまり男子だからといって気を使わないでも良いと思う。 ○とにかく枠にはめず，「ダンスは何でもOK（！？）」であることを強調して自由に動かせる。
学校内での「ダンス」の価値や，意識などに関すること　4件
○授業が学校生活内で花開くよう，運動会などでの大きな発表の場につながるよう目標をつくる。 ○学校内に文化として定着するまで3年間は辛抱する ○創意工夫の活動は仲間をつなぐ，エンカウンター的な意味を持っており，道徳や総合などと深い関連があることを学校内でも理解を深める ○学校に「男女がダンス」当たり前の風土を作る3年間くらいはがんばるとあとは楽になる。

Ⅳ　考　　察

1.　学習者の意識の変容

ダンスを学習することで「ダンス＝女性」のイメージは修正され，優れたところに違いはあっても，向いているかということにおいて男女に差はないという意識が高くなる。2001年度の同調査と同様であった。他校の生徒，学生を対象とした調査でも同様の傾向が見られた。しかし，中学生が一番そのような傾向が強く出ていた。高校生，大学生は，中学生に比べると，学習前から，男女に差はないと考えているものも多くみられた。

比較のために同時期に調査したハードル走，バスケットボール，ペースランニングの3種目についても，学習後には，「男子に向いている」と回答するものが減り，「男女に差はない」が増えている。学習することによって，ジェンダー格差意識は減少することがわかった。しかし，ダンスに対する意識の変化の現れ方が一番顕著である。

ダンスの達成目標について，男子は「ダイナミック」「すぐ動く」「恥ずかしがらない」という点で，女子は「作品としてまとめる」という点で優れていると考えられている傾向があり，2001年度の同調査と同様の結果であった。

2.　指導者の意識の変容

ほとんどの指導者は，男女共習を始める前からダンスが男女どちらに向いているかという点において「男女に差はない」と考えている。そのような意識を持った指導者が男女共習に取り組んでいるとも考えられる。共習を始めた頃は多くの指導者が，どちらかというと男子により多く声をかけており，それは「男子がダンスに向いてくれるか心配」「男子の良さを引き出したい」「男子はまじめにやらないのではないか」という考えなどからである。しかし，学習指導に見通しが出てくると，男女差なく声をかけるようになる。また，共習を始めた頃に比べ男子の特性としてあがっていた「ダイナミック」「発想が豊か」などは，個人差だととらえるようになる傾向がある。また，男女共習のダンスに取り組む場合は，男女の経験や生活の差を考えることやいくつかほめ方に違いはあると考える指導者もいるが，初心者の指導に通じる「ダイナミッ

ク」な運動からはいる課題を最初は多く取り上げ，たくさんほめてお互いに認め合う雰囲気を作り上げることが重要であると言う意見が多く出た。また，指導者側の「男女」の固定観念を捨てる重要性や，学校内にもそのような意識を作り出すような工夫も必要だという意見も出た。これらの調査から，学習指導経験を重ねると，指導者自身のジェンダー格差意識が減少していく様子が読み取れた。

V　成果と課題

ダンスを学習することによって「ダンスがどちらに向いているか」という点についてのジェンダー格差意識が減少するという，昨年度の調査結果を確認することができた。また，本校に限らず，他校の中学生，高校生，大学生についても，同様の傾向があることがわかった。

指導者について，質問紙調査をし，男女共習の学習に取り組むことによって，指導者自身のジェンダー格差意識も解消していく傾向を読み取ることができた。

ところでそのような授業の経過においても意識の変容が見られない学習者も少数存在する。観察結果や，学習カードを検討すると，ダンス授業に対してマイナスのイメージが払拭できない者，自分の作品に満足感を持っていない男子が「ダンスは女子に向いている」と考えやすいように思われる。

生徒がダンスの授業に対してどう感じているか，及び，自分のダンスに対する達成感などが，生徒のジェンダー格差意識の変容にどう影響しているのかについて今後検討してみたい。

おわりに

研究にあたり，アンケート調査に協力して下さった先生方と，学生，生徒のみなさんにお礼を申し上げたい。

指導者の意識調査項目は国際武道大学佐藤みどり氏と共同して作成したものである。

本研究は，日本学術振興会科学研究費　奨励研究Ｂ　平成14年度の助成を受けて進めた。

注

1)　前田博子（1997）体育教員とジェンダー，学校体育50(2)：22-24

2)　松田恵示（1997）ジェンダーの視点から見た体育学習，学校体育50(2)：19-22

3)　木村涼子（1996）ジェンダーの再生産と学校，井上俊他編「こどもと教育の社会学」，岩波書店：東京
　　木村涼子（1999）学校文化とジェンダー，勁草書房：東京

4)　宮本乙女（2001）「ダンス学習とジェンダー報告１」，お茶の水女子大学付属中学校紀要　第31集

5)　宮本乙女（1997）特集体育とジェンダー，学校体育50（2）：31-33

6)　「課題学習」は日本女子体育連盟，授業研究グループによって実践研究され，幼児から大学生にわたる学習の成果が報告されている。